

## LPガスCP速報(2022年6月積)

### 1. 6月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン750<sup>ドル</sup> (前月比-100<sup>ドル</sup>)

ブタン 750<sup>ドル</sup> (前月比-110<sup>ドル</sup>)

#### ① LPガススポット市況等

ロシアのウクライナ侵攻から3ヶ月、原油市況が乱高下するなか、LPガス市場をみると、欧州では温暖な気候でプロパン需要は減少、ブタンはガソリンブレンド需要が減退、天然ガス代替需要が下支えも市況は軟化した。中東市場も不需要期を迎えるなか、中国はコロナ感染拡大によるロックダウンで需要が落ち込み、インドのスポット買いも振るわず。PDH、石化需要が散見されたものの、カタール、サウジ等産ガス国の在庫は高く、米国玉も含め供給は潤沢、需給緩和で市況は軟化した。極東CFRは、原油市況の軟化を受け第3週にはプロパン、ブタンともに一時785<sup>ドル</sup>まで落ち込んだ。

米国市場をみると、不需要期に入ったが、輸出は堅調、高水準が続いている。全米プロパン在庫は10週連続で増加、3週連続で前年同期を上回り、5年平均レンジに入ってきた(グラフ②)。モンベルビュープロパンスポット価格は、在庫増を受けて下落、第1週の660<sup>ドル</sup>台から、第2週は650<sup>ドル</sup>割り込み、第3週には615<sup>ドル</sup>まで下げている。MB月間平均は前月比34<sup>ドル</sup>続落の640<sup>ドル</sup>どころ(グラフ①)。

フレート市況は、船舶需給がタイト気味で市況は堅調に推移。米国積み価格と欧・亜着価格の差が拡大し、米船市況が堅調、船主は米国指向となった。また、パナマ運河の滞船が一時1~2週間に達し、タイト化に拍車をかけた。中東の船舶数が薄くなる中、産ガス国のスポット販売は堅調に推移し、フレート市況は昨年1月以来の高値となった。

ナフサは原油価格に連動し上げ下げ、870~930<sup>ドル</sup>のレンジで堅調に推移、月間平均は900<sup>ドル</sup>どころで、前月比10<sup>ドル</sup>の続落。ブタン市況の下押し要因となった。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は月間平均で前月比30<sup>ドル</sup>下げの696<sup>ドル</sup>、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同95<sup>ドル</sup>上げの1,173<sup>ドル</sup>どころ、留出油の世界的低水準在庫により低硫黄ガスオイルの上昇が著しく両油種の格差は476<sup>ドル</sup>に拡大した。

6月CPは前年同月比プロパン220<sup>ドル</sup>、ブタン225<sup>ドル</sup>それぞれ上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン18、ブタン19ポイントそれぞれ低下、前年同月比ではプロパン、ブタンともに16ポイント低い。2020年4月以来の低水準。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	66	74	85	104	82
CP先物指標:P	820	800	765	765	788
CP先物指標:B	830	800	765	765	790

#### ② 原油市況等

5月の原油市況をみると、ウクライナ危機直後の極端な乱高下は収まってきたが、依然ボラティリティが高い状況(WTI期近終値:安値10日99.76<sup>ドル</sup>、高値27日115.07<sup>ドル</sup>)が続き、ここにきて騰勢を強めている。軟化要因となっていた中国のコロナ対策によるロックダウンが緩和される見通しで、需要回復が期待されるなか、30日、EUがロシア産原油・石油製品の禁輸で合意(パイプライン経由は対象外)、需給逼迫要因となった。バンクオブアメリカはロシア産原油の禁輸で輸出が急減した場合、ブレント市況は150<sup>ドル</sup>を突破すると煽っているが、ブレント原油は30日終値が121.67<sup>ドル</sup>と3月8日以来の高値となった。メモリアルデーで休場の米国市場は、ドライブシーズン入り。石油製品在庫が低水準で、ガソリン、ヒーティングオイル両先物は既に4<sup>ドル</sup>/ガロンを突破、原油も連れ高必至の状況。ガソリン小売価格も最高値に迫っており、バイデン政権の対応にも注目だ。

○5月積みアラビアン・ライト(5月1~30日までの想定)は116.25<sup>ドル</sup>(前月比+8.71<sup>ドル</sup>)

熱量等価AL100% プロパン953.13<sup>ドル/トン</sup> ブタン940.06<sup>ドル/トン</sup>

AL比 プロパン78.69% ブタン79.78%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

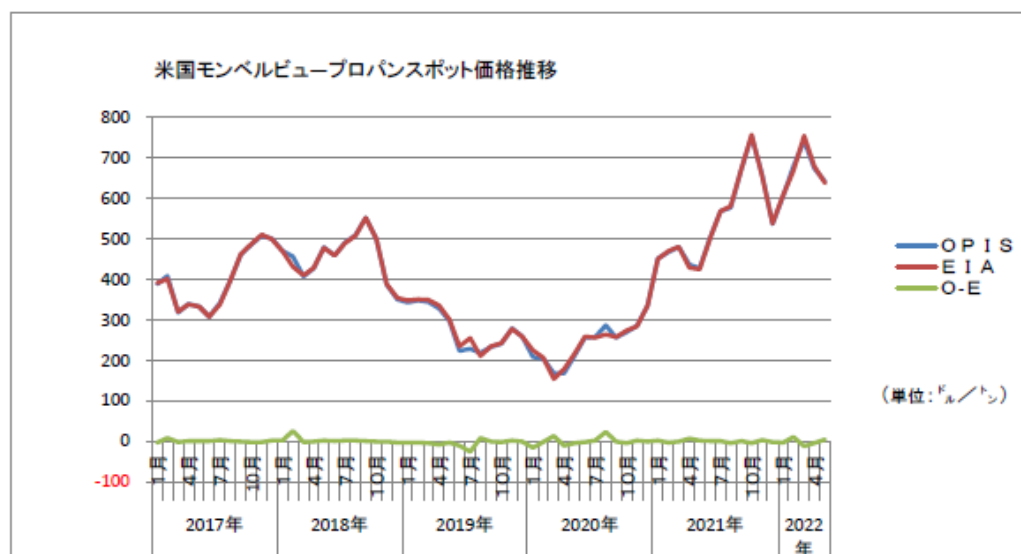
## 2. 2022年6月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
①20日締め	130.16	113,000	115,100	-4,700	-8,200
②末日締め	129.81	112,000	114,600	-6,700	-10,400

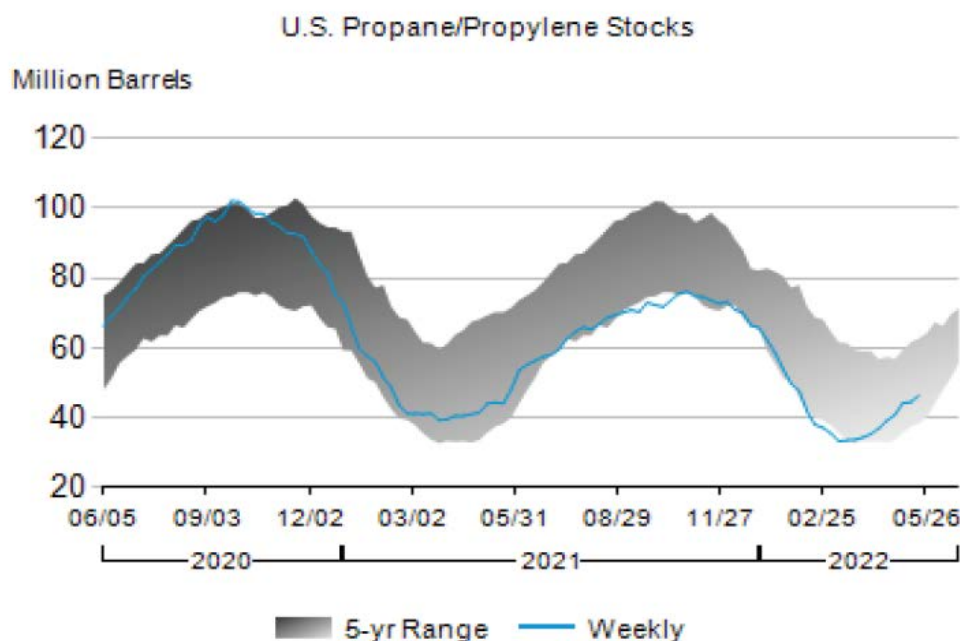
\*TTS平均について、①が4月21日～5月20日、②5月1～31日まで。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①、②ともに中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。

なお、上記MBは5月27日までの価格を基にEINで試算（640<sup>ドル</sup>/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

### ①米国プロパンスポット価格推移



### ②全米プロパン在庫推移



出典: EIA Weekly Petroleum Status Report